

最新作『柳川』公開記念 チャン・リュル監督  
<福岡三部作> 『群山』『福岡』特集上映



福岡

監督・脚本：チャン・リュル

出演：クオン・ヘヒョ、ユン・ジェムン、パク・ソダム、山本由貴 ほか

2019 | 韓国・日本・中国 | 86min

第69回ベルリン国際映画祭フォーラム部門



# 福岡

Fukuoka

韓国で古本屋を営むジユムンは、店の常連である不思議なソダムの誘いで福岡を訪れることに。そこには大学時代一人の女性を愛したことから仲たがいがしたままの親友へヒョがいた。二十年ぶりに再会する二人の中年男に一人の女性に加わり、福岡の路地をそぞろ歩き会話を重ねる。そのうちに三人は現実と夢のあわいのような不思議な体験へと誘われていく。



**中** 国出身でソウルを拠点に活動を続け、世界的にも評価を受けているチャン・リュル（張律）監督が、1991年から30年にわたって福岡市が続けてきた「アジアフォーカス福岡国際映画祭」の協力の元、制作した長編映画。



**チ** ャン・リュル監督は、映画祭を通じて繰り返しこの街を訪れるうちに愛着を抱き、福岡の映画人たちとの関わりを深めるなかで、福岡を舞台とした映画製作プロジェクトが本格化。2018年春に撮影が行われた。

大名エリアの「入江書店」「珈琲花坂」をはじめとして、水鏡天満宮横のうまかもん通り、屋根裏猫、チャンネルシティそばの水車橋、うどんの名店「みやけうどん」など、地元の人気スポットが多数登場。劇中で象徴的にそびえ立つ天神のNTT電波塔や「酒房野菊」などは、映画を通じて再発見された、この街の新たな風景といえる。

**キ** ャストには、本作の撮影後、アカデミー賞作品賞をはじめ世界の映画賞を圧巻した韓国映画『パラサイト半地下の家族』で娘のギジョン役を演じた女優パク・ソダムをはじめ、『新感染半島』やホン・サンス作品でおなじみの名優クォン・ヘヒョ、『ゲームル 漢江の怪物』『母なる証明』などで好演を見せたユン・ジェムンという、いずれも韓国を代表する俳優3人が集結。福岡からは地元を拠点に活動する女優・山本由貴が重要な役で出演。



## チャン・リュル（張律）

中国出身の朝鮮族で、これまでヴェネチア、カンヌ、ベルリンなど世界の映画祭で高く評価されてきた。日本でも『キムチを売る女』『慶州（キョンジュ）ヒョンとユニ』『春の夢』が劇場公開された。『柳川』は『福岡』に続く、日本を舞台にした第2作であり、チャン・リュル監督にとって、『豆満江』以来11年ぶりの中国語映画となる。

BIFF 2018  
BUSAN International Film Festival

# ODE TO THE GOOSE

거위를  
노래한다

감독 장률 Zhang Lu 박해일 Park Hae Il 문소리 Moon So Ri 정진영 Jung Jin Young 박소담 Park So Dam



群山

監督・脚本：チャン・リュル

出演：パク・ヘイル、ムン・ソリ、チョン・ジニョン、パク・ソダム ほか

2018 | 韓国 | 121min

第23回釜山国際映画祭 第14回大阪アジア映画祭

foggy / ha Films

12月23日(金)～ 東京 | 新宿武蔵野館 福岡 | KBC シネマ

12月30日(金)～ 神奈川 | 横浜シネマリン 以降、順次公開

# 群山

Gunsan



鳴かず飛ばずのアマチュア詩人のユンヨンは、先輩の元妻ソンヒョンとあいまいな関係を続けている。ある日、二人は思い付きで、ユンヨンの母の生まれ故郷である小さな港町・群山へ旅に出ることになる。群山で彼らが泊まった民泊の主人は、日本の福岡で生まれ育った韓国人で、今は自閉症の娘と暮らしている。彼らは親子に好奇心をそそられ、やがてソンヒョンは主人に、ユンヨンは娘に惹かれていく。中国朝鮮族のメイド、美しい薬剤師に出会う。彼らと触れ合ううちに、デジャヴの感覚を経験する。

## 『慶』

州ヒョンとユニ』など地方都市を好んで舞台に据え秀作を発表しつづけるチャン・リュル監督が、日本統治時代の面影が色濃く残る韓国の群山を舞台に撮影した作品。『殺人の追憶』『王の願い ハングルの始まり』のパク・ヘイル、『オアシス』『自由が丘で』のムン・ソリが出演。



# 柳川

Yanagawa



中年になり自分が不治の病であることを知ったドンは、長年疎遠になっていた兄チュンを柳川（福岡県）への旅に誘う。柳川は北京語で「リウチュアン」と読み二人が青春時代に愛した女性「柳川（リウ・チュアン）」と同じだった。二十年ほど前チュンの恋人だったチュアンは、ある日突然、姿を消してしまっただが、今は柳川で暮らしているという。誰にも理由を告げずに消えた彼女の存在は、兄弟の中で解けない謎になっていた。二人は、柳川についてチュアンと再会する。

チュアンを演じるのは、チャン・イーモウ（張芸謀）監督の“金陵十三釵”（2011）でデビューを果たし、今や中華圏で絶大な人気を誇るニー・ニー（倪妮）。兄弟を演じるシン・バイチン（辛柏青）とチャン・ルーイー（張魯一）は『空海 KU-KAI 美しき王妃の謎』（妖猫伝）でも共演している実力派俳優。さらに日本からは『アジアの天使』など国際共同制作にも積極的に参加している池松壮亮と『君よ憤怒の河を渉れ』などで中国での圧倒的な知名度を誇る中野良子が出演。チャン・リュル監督にとって初めて中国スターを主演に迎えた作品であり、初めて日本人スターを起用した作品でもある。



■ 第28回ヴズール国際アジア映画祭 グランプリ ■ 第35回中国映画金鷄賞 最優秀中小映画賞/助演男優賞（シン・バイチン）

映画『柳川』 12月16日（金）よりKBCシネマにて福岡先行公開 ● 12月30日（金）より新宿武蔵野館ほか全国順次公開